近畿大学附属高等学校・中学校
校長　　丸本　周生

令和７年度　近畿大学附属高等学校・中学校　　学校評価

１．めざす学校像

・校訓「人に愛される人　信頼される人　尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

２．中期的目標

（１） 近畿大学への進学

① 近畿大学の教育内容に係る理解の深化

② 柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学

（２） 生徒育成の徹底

① 挨拶・礼儀の重視

② 自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成

③ 各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成

④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成

⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化

⑥ 愛校心の育成

（３） 学習指導の徹底

① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める

② 校内の全ての教育活動は、生徒が自立した学習者およびグローバル人材となるべく、何が生徒のためになるかを第一に考えて実施する

③ ＩＣＴを利活用した教育力のスキルアップを常に目指し、未来を視野に入れて教育計画を立て、常に新鮮で創造的なアイデアを生み出すために多様な人材と協働して問題解決をはかる

④ 社会貢献マインドを持ったグローバル人材を育成するため、IB ディプロマプログラムの実施にあたり教職員全員の共通理解のもと取り組む

⑤ 学習過程の評価重視に係る検討・実践・観点別評価の研究・実践

（４） 進路指導の徹底

① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする
【上記（１）に記載】

② 特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う

③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する

④ 生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる

（５） 健全な経営状況の維持

① 事業活動収支差額の安定的な黒字化

② 受験者数の確保と定員の充足

[以上（１）から（４）の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

３．令和７年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 近畿大学への進学	①近畿大学の教育内容に係る理解の深化 ②柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学	①a)近畿大学各学部の特長・内容の理解[高校] b)近畿大学オープンキャンパスへの参加[高校] c)各コースの進路目標にあわせた近畿大学各施設を用いた見学会・体験実習の実施[中高] ②a)コミュニケーション力・発信力・主体性の育成[高校] b)平素の授業を通じての基礎学力の定着[高校] c)年間計画に基づく上記①および②(a)(b)の実施[高校]	①a)単なる学部説明に終始しない工夫 b)高校１年全生徒の参加 c)近畿大学学園各施設を活用した各コースにあった見学会・体験実習の実施 ②a1)自らのキャリアデザインを１年次に 2000 字論文、２年次に計 5000 字論文に著し、３年次に卒業論文 7000 字以上を完成 a2)iPad を利活用した工夫､コミュニケーション力･発進力･主体性養成プログラムを実施 b)各科目定期試験に於いて一定点数以上（素点＋形成評価点） c)年間計画の実施と進学率	①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済学部、生物理工学部、建築学部、国際学部、情報学部、看護学部で学部・学科説明の他、模擬講義や学生相談会、授業聴講等を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(延べ 1820 名の参加：満足した旨の回答 98%)【オンラインまたは対面での実施】→次年度も継続して実施する b)８月 23 日に実施・参加[905 名参加] (第１学年全生徒の参加：満足した旨の回答 92%)→次年度も第１学年全生徒の参加とする c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施→次年度も継続して実施する ・農学部「2025 集まれ、アグリ村」に於ける計 12 回の農学部講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校] → オンライン実施 ・文芸学部「感性学入門」講座に於ける計３回の文芸学部文化デザイン学科講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)［高校］→高校・大学校舎にて９月対面実施 ・生物理工学部現地見学・説明会(希望者対象)[高校]→8 月 28 日に現地で対面実施 ・近畿大学奈良病院見学[中学医薬コース１年] → 6 月 14 日実施(満足度 93.6%) ・医学部見学・体験実習[中学医薬コース２年・４年] → 7 月 15 日・7 月 16 日実施(満足度 97.5%) ・近畿大学奈良病院での看護体験実習[中学医薬コース３年] → 7 月 11 日実施(満足度 86.1%) ・薬学部見学実習[中学医薬コース１年] → 3 月 4 日実施(満足度 86.7%) ・薬学部薬用植物園見学[中学医薬コース２年]→ 4 月 25 日に実施(満足度 93.1%) ・湯浅農場農業体験通年プログラム[中学全コース２年] 5 月 12 日・7 月 15 日・3 月 11 日に実施(満足度 85.1%) ・農学部奈良キャンパス体験学習[中学全コース１年] 6 月 3 日に実施(満足度 96.6%) ・南紀体験学習(水産研究所に於ける学習を含む)[中学２年希望者] 7 月 24 日～26 日に実施(満足度 100%) ・理工学部夢サイエンス[中学 3 年希望者] 8 月 26 日に実施(満足度 94.7%) ・原子力研究所見学[中学 2 年希望者] 7 月 14 日に実施(満足度 100%) ・生物理工学部実験実習[中学全コース１年] 9 月 2 日に実施(満足度 88.8%) ・理工学部実験実習[中学英数コースアドバンスト１年] 3 月 10 日に実施(満足度 84.5%) ・近畿大学英語村での E-Challenge 体験学習[中高全学年希望者] 3 月および８～9 月の期間に実施(満足度 100%) ②a1)１年次にテンプレート３ステップを活用した 2000 字論文を完成（進学コース・６ヵ年課程英数コースプログレス生徒)、２年次にテンプレートを活用した 5000 字論文を完成（進学コース・６ヵ年課程英数プログレスコース生徒）→卒業論文 7,000～10,000 字の完成・提出 677 名)→次年度も継続して実施する a2-1)iPad を用いたクラス別プレゼンテーションの実施(進学コース１年および６ヵ年課程英数コースプログレス１年[4 月]→次年度も継続実施する a2-2)計画通り５月から原則として週１回「KINDAI LEADERS 研修」を開催、『地方創成』について問題解決型学習方式を導入の上、生徒が主体的に学習。東大阪地域の課題を抱えている企業の、問題解決型商品開発プログラムにオンライン・対面で取り組んだ。(大いに役立った旨の回答 100%) b)各科目一定点数未満者(素点＋形成評価点)→補習・再試験による指導 → 次年度も継続実施する c)近畿大学への現役進学率[対卒業生数]61.4%【令和６年度に比して＋0.4%】
(2) 生徒育成の徹底	①挨拶・礼儀の重視 ②自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成 ③各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成 ④学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相	①a)朝の挨拶指導の徹底・［中高]週番の活動による挨拶運動[中] b)2 ヶ月毎の生活目標を設定[高] ②a)登校予鈴時刻までの着席と遅刻時の入室手続きの徹底[中高] b)登下校時の通学路に於ける周囲への心配りとマナー指導の徹底[中高]	①a)朝の登校指導の実施［中高] b)2 ヶ月毎の生活目標を校内の様々な場所に掲示し、全校生徒が一つの共通目標を目指して学校生活を充実させる[高] ②a)予鈴 8 時 25 分段階での担任教員による着席確認と遅刻情報を家庭と共有[中高] b)登下校時に於ける指導強化地点での登下校指導[中高] ③年間計画に基づく毎学期、学年毎	①a)自発的に挨拶できる習慣が定着した[中高] b)学校の教育目標の実現に大きく寄与[中高] ②a)登校時間厳守の徹底。遅刻管理システムによる保護者との情報共有ができたことにより、学校と家庭の双方から遅刻生徒への支援の働きかけが実現した。[高] b)登下校強化地点の登校指導を実施することにより、生徒一人ひとりがマナーを意識し実践する習慣を身につけることができた[中高] ③年間計画に基づき実施し、人権意識の向上に係る指導の充実を継続する[中高] ④a1)iPad 等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内容を設定・実施できた[高] a2)文化クラブの発表会･有志によるダンスやバンドなどのパフォーマンスを披露･学級では趣向を凝らしたアトラクションや特色ある模擬店を出展し、数々の力

	互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の育成 ⑤生徒会および各種委員会活動の活性化 ⑥愛校心の育成	③人権教育室と連携強化し、年間計画に基づく人権教育室発信のワークシートによるホームルームの実施[中高] ④ a1)クラスまたはコース単位での校外学習の実施[高] a2)生徒会および文化委員会による近高祭(文化祭)の立案と実践[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の徹底[中高] ⑤ a)生徒会による挨拶運動・SNS を利用した学校活動の紹介[中高] b)校則の見直し[高] ⑥a)通学圏地域に愛される学校作り[中高] b)自校教育推進[中高]	の人権（権利・平等など）に関するワークシートを用いた課題の活用[中高] ④a1)生徒による校外学習の計画立案と実施[高] a2)生徒会が主となって近高祭が文化的かつ全校生徒が思い出深い行事となるよう企画と振り返り[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の実践[中高] ⑤ a)生徒会執行部による朝の挨拶運動や校内の活動を取材し、その内容をSNSなどを使って情報発信[中高] b)生徒・教員・保護者へのアンケートを実施し、学校長へ校則の見直し要望書の提出。生徒と教員の話し合いの場を設置[高] ⑥a)本校に対するお礼や苦言など様々なご意見について、学校全体で組織的に向き合い、更なる成長を目指す[中高] b)クラスグループ毎、年間計画による指導[中高]	作・力演が発表された[高] 【実施後の生徒アンケートの肯定的回答(とても満足・満足)85%】[高] b)年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を実践。また、各クラブ員による挨拶の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動が随所に見られた[中高] ⑤a)生徒会は様々な校内のコミュニケーションを経て、自校のことを調べ発信していくことにより、主体的な学びと連帯感の深化が見られた。そしてなにより、他の生徒が自分の学校のことをより良く知る機会となり、自校教育の深い学びへと繋がった[高] b)生徒会が全校生徒対象に様々なアンケートを行い、集計を分析することで、より良い学校環境の拡充に向けて話し合うことができた[高] ⑥a)本校に対するお褒めの言葉については、集会などで生徒を褒め称えて自己肯定感へと繋がった。また、苦情などについては、学年集会、HR 活動、サイバーキャンパスを通じて、生徒への問題の投げかけ・注意・支援行うことにより、一人ひとりが大規模校に通う生徒としての自覚を持つきっかけとなった。但し、雨天時学校周辺地域に於ける保護者による生徒送迎車両駐車に対する苦情について引き続き対策を講じる必要性あり[中高] b)年間計画のとおり実施し、自校教育の実現が見られた[中高]
(3) 学習指導の徹底	①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める ②校内の全ての教育活動は、生徒が自立した学習者およびグローバル人材となるべく、何が生徒のためになるかを第一に考えて実施する ③ＩＣＴを利活用した教育力のスキルアップを常に目指し、未来を視野に入れて教育計画を立て、常に新鮮で創造的なアイデアを生み出すために多様な人材と協働して問題解決をはかる ④社会貢献マインドを持ったグローバル人材を育成するため、IB ディプロマプログラムの導入年次にあたり教職員全員の共通理解のもと取り組む ⑤学習過程の評価重視に係る検討・	①a)iPadの利活用による新しい授業実践[中高] b)学園内附属学校教育研究会の実施[中高] c)授業アンケートの実施と自己分析[中高] ②a)iPadを利活用したe-ラーニングによる英語４技能の育成[高校] b)グローバルスタディーズプログラムの実施[中高] c)アクティブラーニングの研究と採用[中高] d)年間計画に基づく TOEIC・TOEIC Bridge[高校]および TOEFL Primary[中学]の校内実施 e)年間計画に基づく海外語学研修･海外留学･国内研修[中高] ③a)授業・学校行事等高校生活に於ける様々な場面でのiPad・各種アプリの利活用および教員の創意工夫による授業の実践[中高] b)生徒の自主性・積極性の育成 [中高] c)情報ネット社会に於けるいじめ・人権侵害に係る年間計画による指導[中高] ④ IB 教育室による計画の立案および担当教員による実施[高] ⑤学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践に取り組む。	①a)下記③の(a)を指標 b)学園内附属学校教育研究会への参加 c)生徒の満足度８０％以上 ②a)通信環境があれば「いつでも・どこでも」学習できることを周知し、指導教員は年間計画のとおり指導 b)年間計画で校内実施 c1)アクティブラーニングによる課外授業実施 c2)教科内での研究 d)年間計画で実施 e)年間計画で実施 ③a)教職員による iPad 利活用内容 b)生徒の取組み c)年間計画による指導実践 ④年間計画で実施 [高] ⑤学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践	①ａ)下記③の(a1)～(a4)のとおり b)本校教職員８名が近畿大学附属豊岡高等学校・中学校での附属学校教育研究会に参加した。初日は大学入試改革・学習指導要領への対応などについて、英語・数学・情報の３つの分科会に分かれ意見交換が行われた。２日目には英語・数学・情報の研究授業を見学し、その後、各分科会で活発な議論が交わされた。 → 次年度は和歌山校で開催予定 c)授業満足度（肯定的回答率） ・90.9% [高校] *授業はわかり易く工夫がされている【93.4%】 *授業・課題等で、iPad やプロジェクター等が積極的に使用されていた【88.5%】 *授業・課題等で、iPad やプロジェクター等の使用によって理解が深まった【85.1%】 *授業内容から興味・関心がわき自ら学習しようとする気持ちが生じた【82.5%】 *教員は質問に的確に答えてくれる【95.1%】 *授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【90.9%】 *宿題(課題)の量や内容はちょうど良い【91.5%】 *3 年・6J ベネッセ模試時のオンライン授業の内容は適当だった(1 年・4 J ・2 年・5J のみ)【86.8%】 ・89.8% [中学校] *授業を真剣に受けている。【96.3%】 *毎回の授業の目標が明確に伝わっている【91.7%】 *声の大きさや話すスピードはちょうど良い【91.0%】 *授業はわかりやすくする工夫がされている【89.7%】 *白板(スライドを含む)はわかりやすくする工夫がされている【88.3%】 *授業の進み方や内容(難易度)はちょうど良い【89.7%】 *宿題(課題) の量や内容はちょうど良い【88.3%】 *授業(実験・実技・実習など)によって興味・関心がわいた【81.4%】 *授業内容に満足している【90.8%】 ②a) 英語 5 技能の総合的な育成を目指している。 Cambridge より English Educational Partner としての継続的な認定を受けている。これは過半数の英語科教員が CELT-S 資格を有し、コミュ二カティヴ・ランゲージ・ティーチングの実践が認められたこと、またその取り組みが継続的に持続していることの成果である。民間の資格・検定試験の活用は継続する。 b)年間計画のとおり実施できた。プログラムの満足度は 100％であった →次年度の継続実施を決定、次年度より、一群 4J プログレス、二群１年には当

	実践・観点別評価の研究・実践			プログラムの 1 日プログラムの実施(Global Day)を企画している。 c1)清教学園高等学校や愛徳学園高等学校など他校生徒、また大阪市立中之島小中一貫校といった校種の異なる児童・生徒との共同プロジェクトや IBDP プログラムのコア科目である CAS を参考にしたコミュニティーのニーズに根差したプロジェクトを学年縦割りで実施するなど新たに他者と関わる課外活動を重視→時代とニーズにマッチしたアクティブラーニングによる課外授業を行うために、年度に応じて刷新を行う。 c2)教育改革推進室からの提案に基づき、各教科での教科ミーティングや次世代教員力養成研修が実施され、様々な研究が行われた。 d)予定通り実施できた→次年度も継続して実施するが、近畿大学の BYOD 施策のため受験環境の整備が困難になることが見込まれており、新たなテストのフレームワークを提案する。 e1)中高一貫コース対象オーストラリア姉妹校研修・オープンパース語学研修、マルタ共和国姉妹校研修、近畿大学入学予定者対象の 3 週間海外研修(個人単位・各国)を予定通り実施した。オープン 3 週間アイルランド研修は戦争の影響で実施することができなかった。生徒たちは学びの成果を Vlog 等で残した。英語特化コースの中長期留学についても推奨実施。昨年度より 1 年進学コース・4J プログレス 3ヶ月留学をスタートさせ、全員が大きな学びを得て無事帰国した。 e2-1)シンガポール英語研修(中学校課程・16 名)を実施【研修中のプログラム満足度・非常に満足 84.6%・やや満足 15.4%】→ 次年度も継続して実施する e2-2)沖縄ホームステイ研修(中学校課程 37 名)を実施 【研修中のプログラム満足度・非常に満足 84.2%・やや満足 15.8%】→ 次年度も継続して実施する ③a1) Apple 社から本校が Apple Distinguished School として 5 度目の認定更新を受け継続中である[2024-2027　2024.8 認定] [高校] a2)Apple Distinguished Educator に 5 名の教員が資格継続 [高校] a3)本校教員および学外教育関係者を対象に教育を考えるイベントとして SET KINDAI を開催した。研修テーマ「生成 AI 時代を切り拓く、主体性を育む教育デザイン」を実施。基調講演:肯定的評価 90.4%、Session2 肯定的評価 97.6%、Session3 肯定的評価 84.6%[中高] b1)文化祭に於いて自分で考え何かを作り出し展示・発表する【利活用の自由度を付与し、生徒もそれに応えている】 b2)文理コース 2 年生が「課題研究 ポスターセッション」を実施(12 月)。毎年行われる高校生国際シンポジウムには選ばれなかったが、次年度も継続する。 c)SNS 講習会を実施[中 1～3][高 1]、インターネットモラル教室を実施し、HR での指導 → 次年度も継続して実施する ④ 年間の DP ミーティング計画に基づき、管理職と IB 教員間の円滑な情報共有を実現した。また、IB 教員研修として 5 名が IB 機構の公式ワークショップに参加・修了した。IB 教育の普及においては、年間 3 回のオンライン説明会および対面での授業見学会を計画・実施した。説明や生徒との対話を通じて IB クラスへの理解を深めてもらうため、毎回 IB 教員を中心に担当者を 2 名配置した。さらに、教員の国際的視野の育成に向け、海外広報活動やマルタ CAS 研修への引率など、IB 教員としての成長機会を提供できた。以上の取り組みから、進学コースにおいて「学習者像（Learner Profile）」を取り扱った総合的な学習を実施し、IB スクールが目指す教育文化を他コース含めた学校全体へ浸透させる第一歩となった。一方で、取り組みの拡大に伴い、IB 教育室および IB 教員への負担が急増している点が今後の課題である。[高] ⑤教育改革推進室を中心に授業展開と学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践に取り組んだ。

(4) 進路指導の徹底 [但し、①については、中期的目標の(１)に記載する]	②特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う ③各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する ④生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる	②下記の③④を年間計画［高校］ ③・年間計画に基づく指導[高校] a)特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力の強化 b)研修会や説明会を通じて生徒の目標達成の支援 c)過年度生への支援 ④・教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施[高校] また、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを年間計画に基づき実施[高校]	②・合格実績 ③・年間計画に基づく実施 ④・年間計画に基づく実施	②・難関国立１０大学・国公立大学医学科・大阪公立大学合格者数計４７名(含過年度生)[京都大学１名・大阪大学１０名・神戸大学８名・九州大学１名・大阪公立大学２６名(医学科１名を含む)・大阪公立大学医学科１名・奈良県立医科大学医学科１名【対前年度増減なし】 ・国公立大学合格者数(含過年度生)計１６１名【対前年度６名増加】 ③・年間計画に基づいて実施できた a1)各種学外入試研究会への参加と情報収集と情報共有 a2)進路指導部による進路指導実践例報告会の実施[5 月・12 月] b1)大学入試情報分析オンライン説明会[６月](高３保護者対象)[約２８０名参加] b2)大学入試オンライン説明会[７月](高２保護者対象)[約６４０名参加] b3)大学入試動向説明会[１１月](高３希望生徒対象)[１８０名参加] b4)大学入学共通テストリサーチ[１月](高３年希望生徒対象)[２０８名参加] c1)過年度生について、各予備校との情報交換の徹底 c2)過年度生への激励メッセージの記入[7 月・12 月] ④・年間計画に基づいて実施できた ・学内進路資料の作成 ・教員対象各種学外研究会内容の周知 ・高大接続およびキャリア教育各種体験型行事への生徒参加促進 ・『みんなの学ログ（ポートフォリオ）』の生徒利活用促進 ・キャリアパスポートの作成、回収、学年間・校種間の引継ぎ等についての周知 ・進路志望調査の実施[４月](高３全生徒対象) ・進路志望調査の実施[４・８月](高２全生徒対象) ・進路志望調査の実施[６・１０月](高１全生徒対象) ・進路適性検査「学びみらい PASS」の実施[７月](高１特進クラス全生徒対象) ・キャリアガイダンスの実施[９月](高１特進クラス全生徒対象) ・夢ナビライブ（模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるオンラインイベント）〔１０月〕 (高１・２希望生徒対象)〔６０名参加〕 ・一日看護師体験の実施[８月](高２・３生希望生徒対象)〔１７名参加〕 ・高校生保育園職場体験の実施[７・８月](高１・２生希望生徒対象)〔１１名参加〕 ・大阪大学説明会 [６月](高１・２希望生徒対象)〔１６０名参加〕 【実施後のアンケートによる満足度９９％(非常に満足７３％・満足２６％)】 ・神戸大学工学部出張授業 [７月](高２・３希望生徒対象)〔４１名参加〕 【実施後のアンケートによる満足度９０％(非常に満足７０％・満足２０％)】 ・神戸大学国際人間学部出張授業 [７月](高２・３希望生徒対象)〔３０名参加〕 【実施後のアンケートによる満足度１００％(非常に満足８９％・満足１１％)】
(5) 健全な経営状況の維持	①事業活動収支差額の安定的な黒字化 ②受験者数の確保と定員の充足	①・ICT 教育環境の整備を引き続き行い、全生徒が問題なくタブレット端末を利活用できるようにし、新たな整備のために、従来からの情報系保守・運用管理費用の削減を行う[中高] ②・安定的な収入を確保するため、生徒募集を強化し、受験者の確保、定員の充足に努める[中高]	①・決算での事業活動収支差額の黒字化 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 b)募集人員の充足	①・令和 7 年度の事業活動収支差額は赤字となった。主な要因は、生徒数・入学者数の減少による収入減に加え、空調システム更新、電灯幹線設備修繕、高置水槽更新などの工事に伴う費用や、光熱水費等の負担である。また、学校法人会計基準の改正に伴い、令和 7 年度に限り計上した一時的な費用も影響した。 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 高等学校 1.05 倍 中学校 前期入試 1.19 倍・後期入試 1.42 倍 b)募集人員を充足した[中高]